

4 - 9 中部地方北西部（飛騨地方北部）の最近の地震活動 (2) 1977年6月 - 1978年12月

Seismic Activity in the Northwestern Chubu(Northern Hida) Region, (2) June,
1977-December, 1978

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所・地震予知計測部門

Kamitakara Crustal Movement Observatory and Research Section for Earthquake
Prediction, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

上宝地殻変動観測所では1977年5月に地震・地殻変動観測のテレメーター・システム¹⁾が完成して以来、跡津川断層周辺を含む飛騨地方北部の地震活動を継続して観測している²⁾。ここでは、爆破観測から得られた新しい地殻構造³⁾を考慮して震源の再決定を行なった結果にもとづき、観測開始後、1978年12月迄の1年半の期間中の地震活動状況³⁾を報告する。

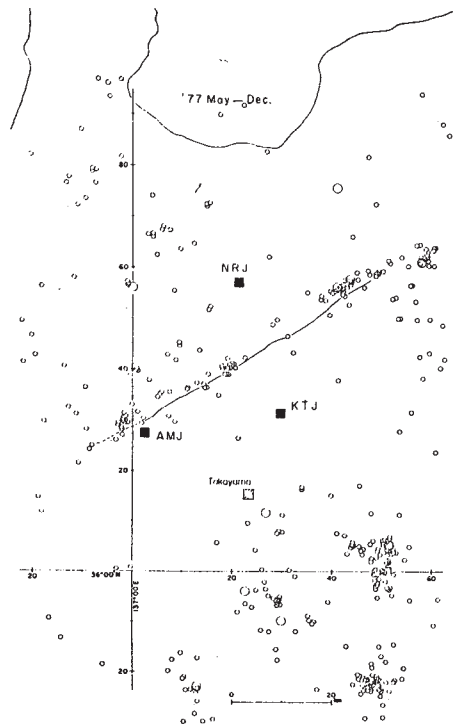
第1～3図は半年毎の震央分布であって、この間の地震活動の時間的推移を示す。またこの期間中に震源が決定出来た約1,500個の全部の地震 ($M_L > 0.5$) の分布を第4図に示した。図中の大きい白丸は $M_L > 3$ 以上のやや大きい地震である。また第4図中にはこの地方の顕著な活断層の位置^{4), 5)}を示してある。

跡津川断層沿いの活動は時間的にはほぼ定常的であるが、断層東部の有峰湖付近、西半部の菅沼・天生間で活澁であって、1978年後半には両方でやや大きい地震も発生しており、北側の牛首断層西部にも $M_L = 3.6$ の地震が起っている。跡津川断層の東側延長部にあたる黒部湖西方から北アルプス沿いに南方へ伸びる方向にも、1978年には $M_L = 3.8$ 程度のやや大きい地震とこれに伴う群発活動が起っており、注目される。さらに南方の乗鞍岳南側では定常的活動があり、御岳山南方（長野県王滝村）の群発活動も依然継続している。このほか1978年には高山南方の飛騨小坂・萩原付近にも比較的大きい地震が起り、活動度が高い。これらの大部分の地震の震源の深さは15 kmより浅い。

参 考 分 献

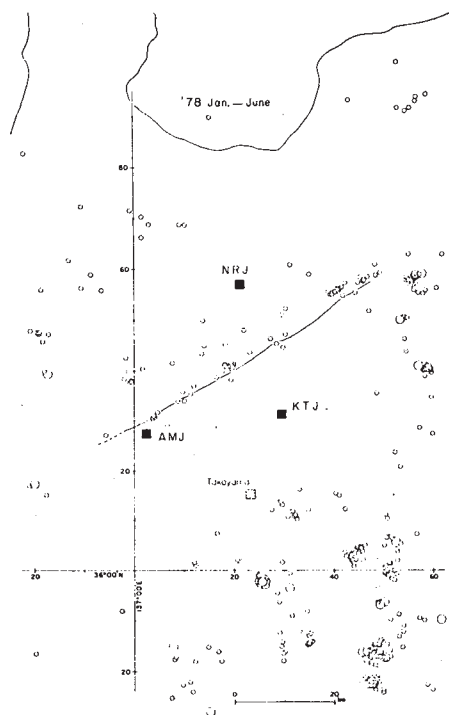
- 1) 京大防災研究所上宝地殻変動観測所・地震予知計測部門, 1978, 上宝地殻変動観測所の地殻変動・地震観測テレメーター・システム, 京大防災研年報 21 B, 119 - 135.
- 2) 京大防災研究所上宝地殻変動観測所・地震予知計測部門, 1978, 中部地方北西部の最近の地震活動(1) 1977年6月 - 12月, 連絡会報 20 (1978), 147 - 151.
- 3) 和田博夫・三雲健・小泉誠, 1979, 飛騨地方北部特に跡津川断層付近の地震活動と発震機構, 地震Ⅱ, 第32巻(投稿中).

- 4) 松田時彦・岡田篤正・藤田和夫, 1976, “断層と地震” 地質学論集第12号付録. 垣見俊弘・衣笠善博・加藤碩一, 1978, 日本活断層図 (地質調査所発行).



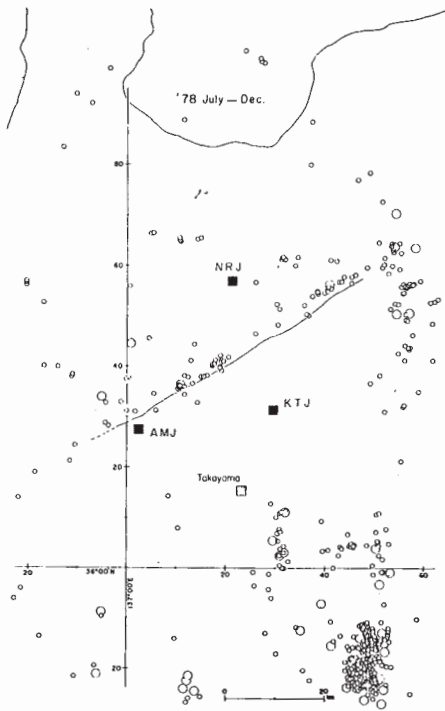
第1図 飛騨地方北部の地震活動 (1977年6月 - 12月)

Fig. 1 Seismicity in the northern Hida region, June - December, 1977.



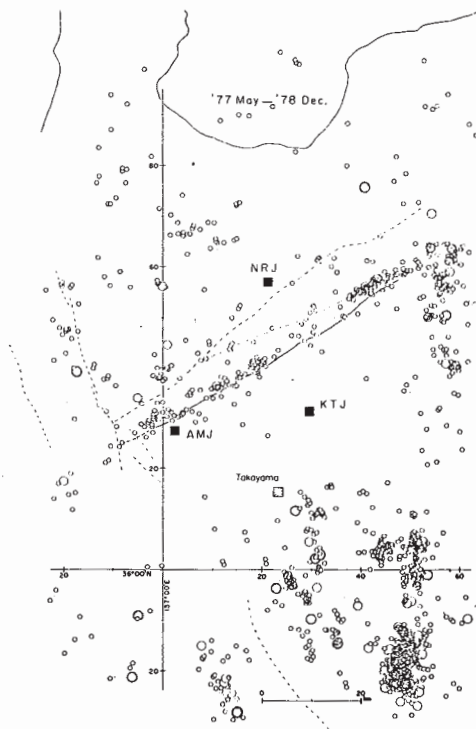
第2図 飛騨地方北部の地震活動 (1978年1月 - 6月)

Fig. 2 Seismicity in the northern Hida region, January - June, 1978.



第3図 飛騨地方北部の地震活動 (1978年7月 - 12月)

Fig. 3 Seismicity in the northern Hida region, July - December, 1978.



第4図 飛騨地方北部の地震活動 (1977年6月 - 1978年12月)

Fig. 4 Seismicity in the northern Hida region, June, 1977 - December, 1978 (Epicentral distributions in Figs. 1 - 3 are superposed).